
《学校の先生について》

とーよー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《学校の先生について》

【Nコード】

N3761V

【作者名】

とーよー

【あらすじ】

学校の先生についての作文

学校の先生といわれる人間がいるが、特に好きだった人間も、嫌いだった人間もないのだが、大体この学校の先生と言われる方々にはパターンが決まっていた様に思う。

まず、女性教師に多いのがヒステリックタイプ。

勝手にクラスを飛び出し、授業という仕事を堂々と放棄する、とんでもない、信じられない様な、破天荒なタイプ。

これはプロでは無いし、こんな事をした時点で教育免許を持つ資格はまず無い。

担任がそのクラスの授業を担当する事の多い小学校などでは、特にその傾向は分かりやすく、まず1番目に付くのは、勝手にクラスの目標を掲げるハリキリ気味な先生。

その前にクラス目標とは、特に、誰も、望んではないのだが、担任が勝手にそれらしい事を【生活の時間】などと、これまた分かりにくいジャンルの授業項目を週に1、2度入れ込み、その中で、担任の評価を上げたがっている、シャシャリ出てくるタイプのヤツが、「やっぱー」。僕はー。クラスのー。目標とかはー。建てた方がー。良いとおもいまーす」などと、担任の評価を上げたいが為の発言をし、担任も担任で、黒板横のデスクで何か書いているフリはしながら、ちゃんと話は聞いている様子で、口元だけニコヤカにしたりしながら、「へへへ。良い事言っただけ」みたいな、あの上から目線な笑みを浮かべ、こんな事するから、この様な時間ではこの様な2タイプが強くなり、担任がいる手前、ソイツを気軽にいじめ

る事も、文句を言う事も出来ず、普段は勉強ばかりで大人しいブンザイであり、楽しい会話が出来ない為に、ここぞとばかりに意見を出す。

「やっぱりー。クラスの目標はー。みんなが納得するものが良いと思うし、みんながお手本になる様なものが良いと思う」

などと、それ自体がまるでお手本の様な事を言いやり、更に担任は調子に乗り、いよいよ、口を挟み出す。

「ちよつとみんな良いかなー」

みんなと言った所で、そんな話自体、クラスの目標などといった話合い自体にそもそも興味が無く、俺なんかは、全部「廊下を走らないう」だけで良いと思っていたのだが、担任はやはり違い「なあ！みんな！まず田辺が言った「クラスの言葉を1つにし、気持ちを輪にする3年3組」だが、これはなかなか良いと思う」と、いきなり自分の個人的見解を押し付ける。

まあ、この田辺自体は、実は普段から頑張り気味に勉強に打ち込み、それでいながらバカのように、代表や係に自分から立候補するタイプで、必ずといって良い程、塾や家庭教師を付けているブンザイで、努力は1番しているクセに、そういうヤツに限って必ず2番であり、逆にクラスで1番というヤツは大体が天性の1番の様なヤツが多いのである。

特に努力もしていなく、勉強だけでは無く、体育も出来、女子とも気軽に冗談溢れる会話を楽しめ、顔も良かったりする。

休み時間も変な集団と話をしている、このメガネ的な2番目のヤツ

は必ず、努力に報われず2目で、その事を根に持つていながら、對抗意識で「俺も努力してませんからw」的な態度をお示しになるが、色んな所から努力が滲み出て来てしまい、眉毛を剃る事も覚えず「体育」という学園生活で1番楽しい授業を完全に放棄し、勉強に専念したクセに、やはり2番なのである。

そして、教師というのは、この2番がわりかし好きで、それが何故かというと、学校の教師自体が2番辺りだった人間がなり得る傾向が非常に強く、そんなかつての分身の様な2番を好み「みんなが嫌がる事をしない！」等と、特に敵を作る事のない正論を発表し、まあ、担任もそれを「みんな！田辺の掲げた目標はどーだ」などと、押すのであれば、それを無理に否定する事は出来ず、また、そんな分かりやすく、特に反感の無い意見に対し、意義を申し立てる事自体が難しく、それが担任等という、自分の成績や通知評価に対する権限を握っている人物であれば尚の事、誰も意見は示しにくくなってしまう、元より、そもそもが、それ程、真剣には考えていないので、クラス目標は、この2番目男の意見になりやすく「ケジメを付ける」などと、聞き方によっては、小指をチョンギらなくてはいけないのかと不安になる様な言葉を提示し、つくづくこの教師というのはバカだと思ってしまう。

更に、中学になれば生活指導などと言われる役割をする教師まで現れ、コチラはただでさえ、勉強などといったつまらない行事に付き合っただけなのに、更に、人の生活にまで口を挟むのだから、たまったもんじゃない。

この生活指導といわれる人間にはお馴染みの傾向があり、やはりコチラも意見を出しにくい人物が配置される事が多い。

なぜか、ちよつとガタイの良い体育の教師などが優先的に生徒指導

などという役割をする事が多いのはなぜだろう？

あれは、その事自体で気分悪く思ってしまう。

幾ら、教育問題や体罰問題がシツカリ提示された所で、そこに対する学校側の取り組み意識を悪い様に感じ、ちゃんと、色んな言い訳も用意されていそうな所が、気持ち悪くなってしまうのだ。

ちよつと、ゴツメで強そうな教師が注意をすれば、みんな言うことを聞くだろう」といった腕力誇示な部分が見受けられ、また、そんな事をするのであれば、何1つ悪い事をしていない人間から、威圧的にタメ口で人の身分証明を見ようとする警察官や、集団意識を武器に、肩で風を切りながら歩くヤンキー達と変わらない。

教師でしょ？

教育でしょ？

御手本になる学校ですよ？先生という立派な方だろ？

バカじゃねーの？

「暴力はダメ」

「イジメは良くない」

「なんでも話合いで解決しましょう」

では、俺も1つ、言いましょう。

「まずは自分がやりましょう」

まあ、そこは真剣に考えて頂きたいとは思いますが。

それが違うというのであれば、あの、弱そうな理科の教師が生徒指導をし、白衣を着ながら、これまたバカのように荒々しい竹刀など見せびらかさずに、ピーカーと試験管でも持って、校門の前で制服のチエックをしていれば良いのである。

英語の教師は「ミスターなんちゃら」「グッモニーン」等と、バカにした態度で人の名前を英語で言ったり、挨拶をする必要は全く無く、挨拶をするのであれば、シツカリ、大きな声で「おはようございます」「ありがとうございます」と、日本人としての誇りを胸に持って頂き、また、英語が覚えたい場合は、そんな事をする必要は無く、面白く無い授業を何時間した所で流行らないのは流行っていない事でお分かりの様に、また、流行らせる力自体を元々2番だった教師が持っているわけは無く、そもそも英語なんてものは結局スピードランニング的な物を聞いていけば良いのである。

まあ、色んなジャンルの、色んな教師について軽く書いてみたが、ドイツもコイツも、結局は、スピードラーニングで英語を覚えた年下のゴルファーに年収が負けて居るヤツばかりなので、関わる事の無くなかった今となれば、然程気になる事でも無いので、この辺りでやめておきましょう。

どーも。どーよーでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3761v/>

《学校の先生について》

2011年10月9日04時13分発行